

令和8年度 犀峽高等学校・篠ノ井高等学校犀峽校「関東同窓会」総会 報告

日 時 2026年6月13日(土) 12時～14時30分

場 所 東京都千代田区麹町6-6 スクワール麹町

関東同窓会 会長 坂井吉良

1. 総会

開会の辞に引き続き、39年度卒業の今井さんの指揮により、犀峽高校の校歌を斉唱しました。その後、坂井関東同窓会長のあいさつがありました。

(1)坂井関東同窓会長あいさつ(要旨)

・遠方からお越しいただいたご来賓及び本日出席された会員の皆様に謝意を述べられました。

60年前の昭和41年3月卒の会長は、当時の母校について、50名のクラスが4クラスあり、1学年200名が在籍し、定時制も併設されていたので、全校で600名を超える同窓生が学んでいたことを説明し、いわゆる、当時の同窓生は団塊の世代であり、高校時代から現代まで多くの話題を提供してきたことを話されました。特に、進学率が上昇し、中学浪人も生み出すという厳しい競争環境下で、同窓生は多様なジャンルで団塊の世代を実感してきたことを回顧していました。

現在母校の20名と60年前の600名の在校生という環境での高校生活は大きく異なっていますが、重要なことは20名という大切な同窓生が高校生活を送っている事実を強調され、関東同窓会として在校生を応援することを提案しました。特にカヌー部のクラブ活動の現状を踏まえ、山口前会長が行ったワンコイン寄付という同様な応援を提案し、会員にご協力をお願いいたしました。

また、母校では男女共学という環境で育てていただいたことを話し、本日の女性の参加者が10人であることにふれて、女性の参加者が少ないのは、高市総理大臣と同じ理由であることも予想されとの感想を述べた後に、参加者のジェンダーギャップは明らかのように思いますと強調しました。

最後に、同窓生とのコミュニケーション、母校への応援及びジェンダーギャップ等の話題を含めて、本日エンjoyしていただければ幸いですと述べ、本日の参加のお礼とともに、今後も「母校」及び「関東同窓会」へのご支援をお願いしたいと挨拶されました。

来賓の挨拶

(2)進路指導主事・高木先生あいさつ(要旨)

・高木先生から地元信州新町の出身(牧野島)である旨の自己紹介があり、次のような近況報告がありました。

○人口の減少

信州新町の人口について調べたところ、今から20年前には5300名でしたが、今年の人口は3100名でこの20年の間で2000名程減少していました。しかも、65歳以上の人口が70パーセントであります。高校に入学する人数が少なくなるのは仕方がない現象で、このような中での同窓会の皆様のご支援大変ありがたく思っています。

○高校の今後

今年の春、入学した生徒は7名で、全校生徒20名でスタートしたこと。長野県の高校改革として、在籍生徒数が60人以下の状態が2年連続した場合には、存続を検討するとの指針が出ていること。来年、これを超える40名の生徒が入学していただけるかは少し厳しい状況が予想される旨の説明がありました。

そのような中でもっと信州新町を知ろうとの探求学習として、昨年の琅鶴祭では「おやき」の具材を生徒たちが提案し販売したところ、大変好評で短時間のうちに完売しました。また、最近では、信州新町の地域興しとして、信州新町以外から来て活躍する方も年々増えています。

○カヌー部の活動

来週から県内で初めて、カヌーを使用した体育の授業が始まります。私もカヌーに乗って体験しましたが。普段は道路から見える犀川の川辺の景色も、カヌーに乗って見ると久米路橋などの景色は随分と違って見え、格別の感動を受けることができます。

カヌー部の活動は従来、乗艇が出来れば、ほぼインターハイまで出場が可能でしたが、本年から標準タイムが新設されルール改正が行われたため、そのタイムをクリアしないと出場が出来ないことになりました。

また、これまでは犀川で練習を積んでいましたが、バス路線の減便、廃線を受け、平日の乗艇練習ができず、現在、毎週末に北竜湖にマイクロバスで遠征して練習しています。これも同窓会からのご支援で大変助かっています。

○進路指導の結果

昨年度の卒業生には、9倍の難関を突破して公務員(長野市消防局)になった生徒がいます。この生徒は、入学当初からの明確な目的を持って精進した結果であります。また、他の生徒も大学、専門学校、就職と皆それぞれの道を歩み始めています。

最後に、今後も同窓会による一層のご支援ご協力をお願いしたいと話されました。

(3)清水本部同窓会長あいさつ(要旨)

・本部同窓会長清水様より、同窓会員の皆様には日頃よりご支援いただいております、感謝いたしますと述べられ、一昨年から本部の同窓会長を仰せつかり、昨年、関東支部の総会に出席し盛会なので少々驚くとともに、今年は副会長を参加させる予定でいましたが、高木先生とは旧知の仲なので(信州新町中学校まで同級生)今回も出席することとしました。

同窓会役員としては、いかに学校や生徒の皆さんと関わりあえるかを念頭に母校の支援に努めてきました。また、在校生への支援の一つの方法として同窓会費の納入ですが、本部関係も含めて、少しでも多くの方々の支援をいただけるよう本部としても努力してまいりたい。

また、今年もリンゴジュースを差し入れさせていただきました。年々、異常気象やようやく実った果実も有害鳥獣の激増で被害を受け、思ったような収穫にならない状態ですが、今後も頑張っって続けていきたいと挨拶されました。

議事

(1)事業報告について

(2)会計報告について

(3)会計監査報告について

それぞれ担当者から資料に基づき報告があり、会員の多数より賛同をいただき承認され、総会は終了しました。

2. 懇親会

昼食を兼ねた懇親会が、33年度卒業の鎌田様の「乾杯のご発声」で始まりました。

しばらく懇談しそれぞれ親交を深めった後に、現在、石川県にお住まいで48年卒業の高坂様より、能登地方の震災とその後に起きた豪雨災害のダブル被害にあわれた方々を支援するため、「ボランティア活動」に従事した貴重な体験を話していただきました。

母校に心を寄せていただいたカヌー部へ寄付の結果が会長より報告があり(総額53,060円)、檀上で高木先生に贈呈されました。高木先生から謝意があり、会場は大きな拍手に包まれました。

続いて、「村田さんと48年の仲間たち及び有志」の指導で「第一応援歌」を、全員で合唱し大いに盛り上がりました。

その後、今井さんのリードで「信濃の国・故郷」をみんなで合唱。

最後に、49年度卒業の村田様の「締め」で懇親会が終了しました。

(広報担当 宮崎利久)